

芦別市

辻 啓吾

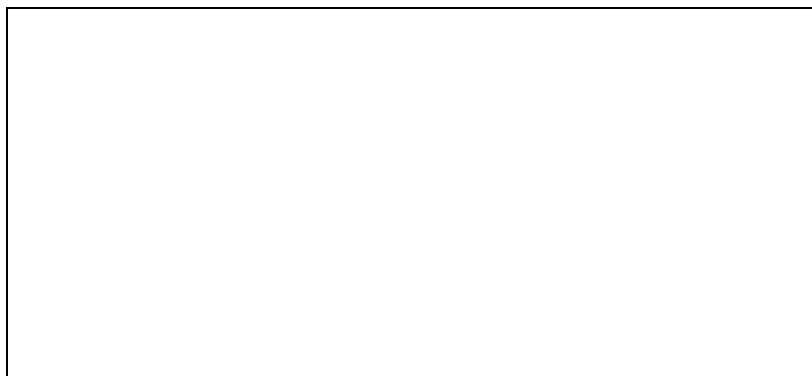
1 地名の由来

「芦別」という地名は、市域南端から中部にかけて南北に貫流する芦別川に由来する。「芦別」とはアシュベツ：アイヌ語で、アシュ（切り立つ）ベツ（河）、つまり「川底深く険しいところ」を意味する。

2 歴史

明治 26 年山形県からの移住者（佐藤伝次郎）によりはじめて芦別市の地に開拓の鋤（くわ）が入れられ、以来、富山・石川・福井県などからの移住者が中心となり開拓が進められた。明治 33 年、歌志内村から独立して「芦別村」が誕生し、以後、昭和 16 年に町制が、昭和 28 年には市制がそれぞれ施行され、現在に至っている。明治 30 年より掘りはじめられた石炭は、大正 2 年、三菱鉱業が本格的に開鉱したのを契機に徐々に拡大し「炭鉱のまち芦別」を築きあげた。鉱山としては、芦別 5 鉱山として油谷鉱業・高根炭鉱・明治鉱業上芦別・三菱芦別炭鉱・三井芦別炭鉱が有名である。明治 30 年から掘り始められた石炭により「炭鉱のまち芦別」を築いたが、昭和 30 年代以降急速に進んだエネルギー革命により次々と閉山を余儀なくされ、平成 4 年にはとうとう最後まで残っていた三井芦別鉱が閉山し「炭鉱のまち」としての幕を閉じた。現在では、基幹産業が厳しい状況に置かれた中で、市はまちを再活性化させるために企業誘致や観光開発に力を入れ快適な都市基盤の整備や経済基盤の安定に力を入れている。

図 1 北海道における芦別市の位置

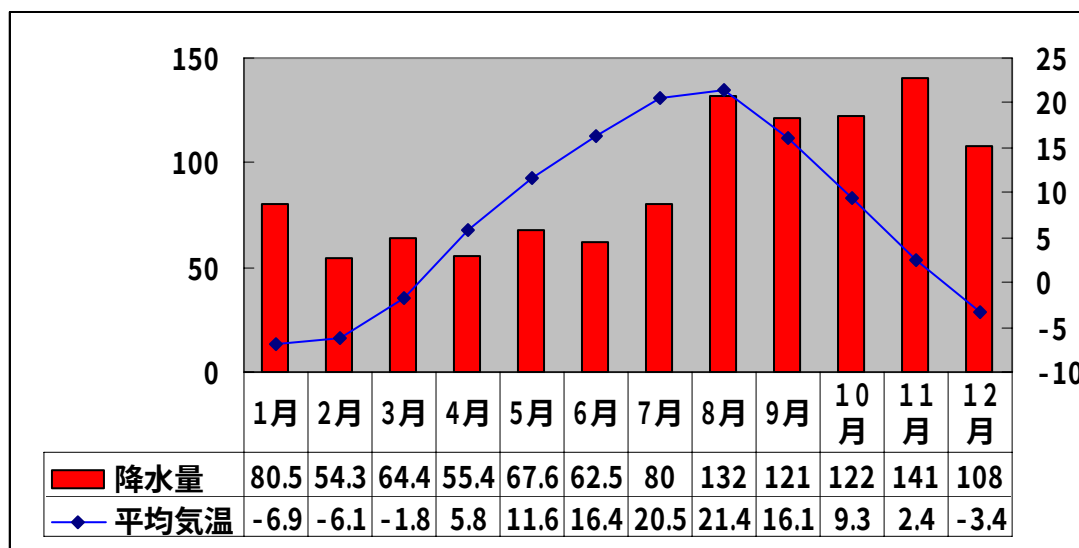


出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

3 地理・気候

芦別市は北緯 43 度、東経 142 度と北海道のほぼ中央に位置し(図 1 参照)、東西に 24.9Km、南北に 48.6Km、面積は 865.02K m²にもおよび、全国の都市部の中でも広大な面積を有している。そのうち、88%は山林であり、南東から北西にかけて空知川が流れ、豊かな自然に恵まれている。気候は大陸性で年間平均気温は 7.3 と比較的温暖な方だが、降雪量は多く、平均降雪量は約 4m、最大降雪量は 1mに達する。市域中央部を北流する芦別川をはじめ、野花南川、パンケホロナイ川などの支流を集めて空知川が北部を西流する。東南部には、夕張岳が走り、南部には、幾春別岳、礼振峰、芦別岳など 1000m を超える山々がそびえている。交通面では、千歳空港より J R、バスの交通機関が利用できる。J R：所要時間 2 時間 30 分、高速バス：所要時間 3 時間。札幌からは、高速バスで 1 時間 50 分。また、旭川からはバスで、1 時間 15 分で芦別につくことができる。図 2 からわかるように、芦別市は道央に位置しながら年間の平均気温は道南地方とほとんど変わらず、降水量も年間を通じて適当であるため、農作物の生育に適しており、凶作知らずといえるほどである。また森林が多いため空気が澄み公害もないので、専門的な見地から保養適地と折り紙がつけられている。そして、環境庁（現環境省）の「星空の街コンテスト」では 108 市町村の 1 つに選定されている。「星の降る里」の名のごとく晴れた日の夜は満天の星空で、星の等級が 1 等分ほど明るく見え、星座も分かり難いほどに星がキラキラ輝き、今にも天から降り落ちそうな星空は街の財産になっている。

図 2 芦別市の気候

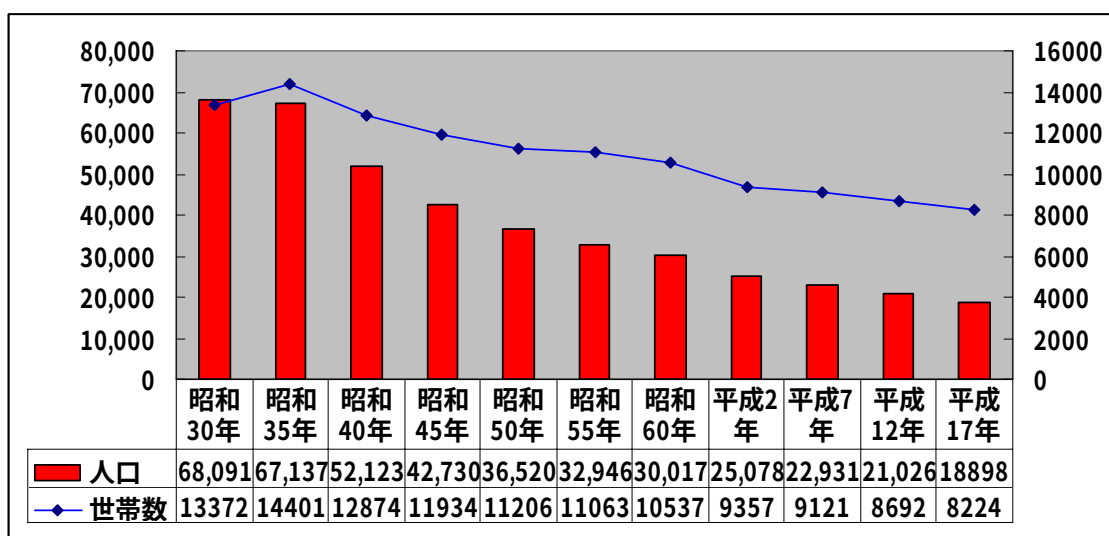


出典：気象庁 HP

4 人口・世帯数

下の図 3 からわかるように、芦別市における人口は年々減少している。人口減少率も全国第 5 位となっている（平成 17 年度国勢調査より）。また、世帯数も昭和 35 年をピークに年々減少している。これらの要因として考えられる事柄は、かつては芦別市の主要な産業であった石炭産業の終焉ということである。日本では昭和 30 年代に始まるエネルギー革命によりエネルギー源は石炭から石油に変化した。当然の結果として石炭の需要が極端に減少したのである。同時に、芦別市の人口・世帯数の減少も始まったと考えられる。

図 3 芦別市の人口・世帯数推移



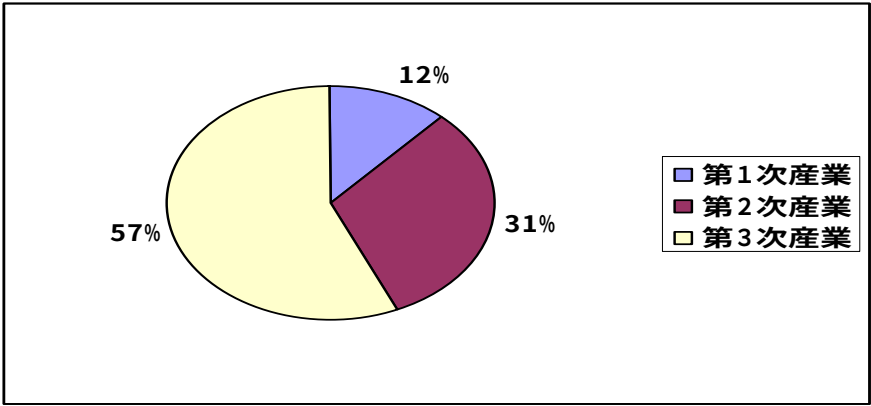
出典：空知支庁 HP

5 産業別人口

下の図 4 の芦別市における産業別人口を見ると、第 1 次産業の割合が約 10%、第 2 次産業の割合が約 30%、第 3 次産業の割合が約 60%と第 3 次産業の割合が高くなっている。芦別市の場合、昭和 30 年以前は炭鉱のまちとして第 2 次産業が盛んであった。したがって、まちの発展には第 2 次産業の動向が大きくかかわってきたのである。しかし、昭和 30 年頃から始まるエネルギー革命により産業別人口における第 2 次産業の割合が大きく減少した。それと同時に、第 3 次産業の割合が増加しはじめた。しかし、ここでもう 1 つ注目すべきことがある。それは、現在でも芦別市は他の市に比べて第 2 次産業の割合が高いということである。例えば、旭川市を例に見てみると第 2 次産業の割合が全体の約 23%と芦別市よ

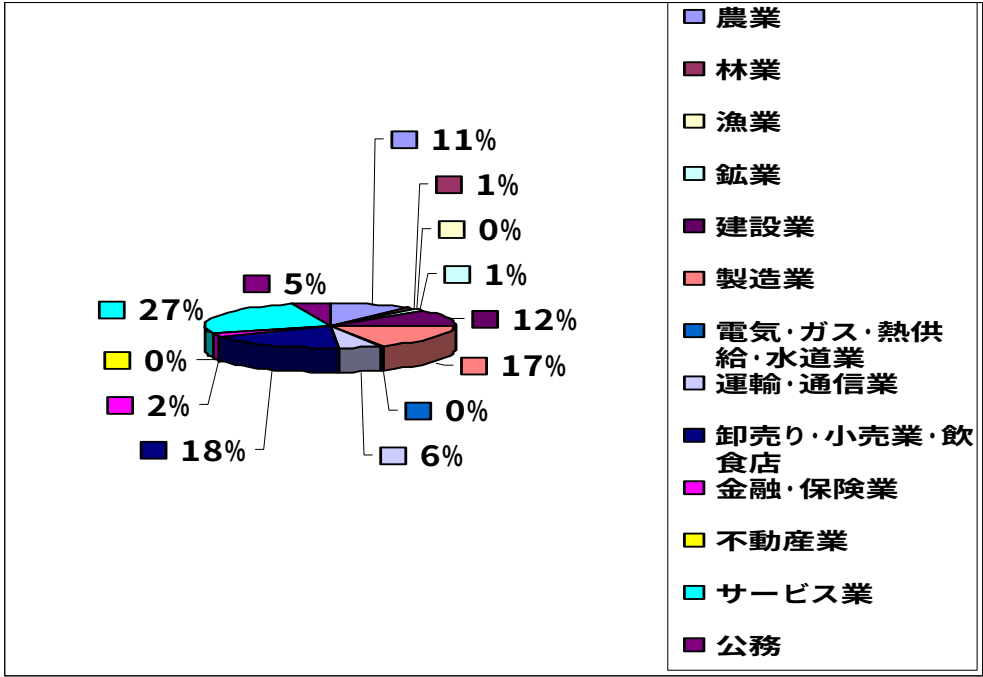
りも低い数値となっている。この原因として考えられることは、国策としてかつて炭鉱のまちとして栄えたが今では衰退してしまった地域に対し、優遇措置として工業団地の造成などをしたということである。この国策によって芦別市は今でも他の市町村よりも第 2 次産業の割合が高くなっている。現在、市はまちを再活性化させるために企業誘致や観光開発を中心に力をそそぎ快適な都市基盤の整備や経済基盤の安定に力を入れている。

図 4 芦別市の各産業従事者の割合（平成 12 年度国勢調査）



出典：平成 12 年度国勢調査

図 5 芦別市の産業別人口（平成 12 年度国勢調査参照）

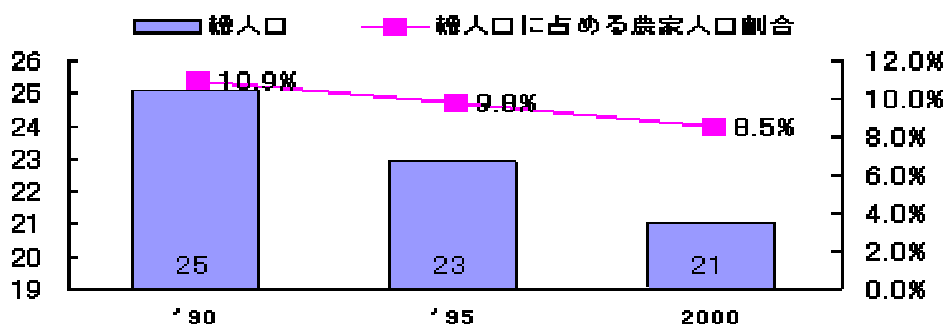


出典：平成 12 年度国勢調査

6 農業

芦別市においては農業従事者が 526 世帯、林業従事者が 424 世帯と第一次産業が総世帯数 8692 世帯（平成 12 年度データ）の約 10%を占めている。芦別市において農業に従事している 526 世帯のうち、自給的農家は 33 世帯で販売農家は 488 世帯となっている。これらを主副業分類で見ると主業農家は 257 世帯で準主業農家は 59 世帯、副業的農家は 172 世帯である。また、専兼業分類で見ると専業農家は 159 世帯、第 1 種兼業農家は 188 世帯で第 2 種兼業農家は 141 世帯である。農家における男女比は、全農家人口 1790 人のうち男性が 848 人、女性が 942 人と女性の方が多い。また、基幹的農業従事者数は 825 人で、このうち男性は 395 人、女性は 430 人である。図 7 からわかるように、芦別市全人口における農業従事者の割合はここ 10 年を見ただけでも 2.4%も減少しており、芦別市の総人口の減少に伴い農家の割合も減少していることがわかる。農業産出額では、第 1 位がお米で 43%、第 2 位が野菜で 14、第 3 位が花きで 10%となっている。

図 6 総人口に占める農家人口割合のここ 10 年間の動き



出典：「市町村の姿」－北海道芦別市

7 市の活動

近年、芦別市は「合宿の里構想」を積極的に推進し実行している。有名であるのは全日本女子バレーボールチームである。2000 年のシドニー五輪を目指していた全日本女子バレーボールチームが芦別市に本拠地を構えて長期合宿を行った。これは、日本バレーボール協会が全日本女子の強化策として、合宿拠点を継続した長期の練習を積み重ね、チームの強化を図るホームタウン制を計画し、これに「合宿の里構想」を進める芦別市が選ばれたことによる。この合宿をバックアップするため、市では選手のトレーニングハウスを建設、北海道一を誇るトレーニング用器械を整備した。また、市民は市民有志による応援グルー

プ「芦別サポーターズクラブ」を結成するなどして、選手を積極的に応援している。合宿の地となる芦別市健民センターは昭和 47 年に炭鉱が閉山した跡地からわき出した鉱泉を利用した施設で、泉質が優れ、自然に恵まれた環境であることから一般の利用者も多く、ホテル、国民宿舎の温泉宿泊施設、運動広場、テニスコート、陶芸センター、体育館、屋内プール、パークゴルフ場、さらに 2000 年の 7 月にオートキャンプ場をオープンするなど、森林空間を活用した温泉とスポーツの保健休養施設として、より充実した施設整備を目指している。市では、この合宿誘致を契機にさらに「合宿の里構想」を積極的に推進し、まちの活性化に努めていきたいと考えている。

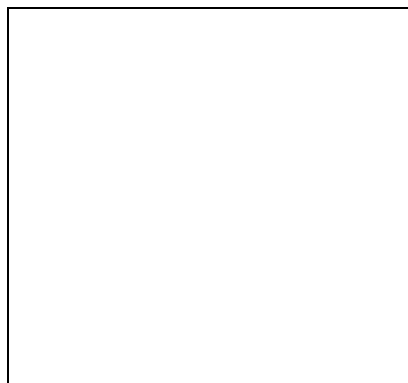
8 観光

～芦別市の主な観光名所～

1 北の都芦別

北の都芦別は昭和 44 年 2 月にオープンした観光旅館である。なんといっても目立つのは、芦別のどこからでも見ることのできる北海道大観音（図 7 参照）である。この観音は、北海道の発展と世界の平和を祈願して平成元年に建立された。北海道大観音は高さ 88m、世界一を誇る大観音で、北の京芦別のシンボルとして、広く親しまれている。また、この観音の内部には展望台も設置されており、観音様の大きな足、見上げると雄大な顔があり、スケールの大きさに、驚嘆される。宿泊施設としては、五重の塔と三十三間堂という豪華な様式も 2 つがある。ホテル五重の塔は、奈良の法隆寺そっくりに建てられ塔は 10 階建て。飾り窓や欄干、かわらぶき屋根、四方の突端の風鐸など延べ 330 m²、高さ 56.5m、宿泊定員 137 名の超豪華な建物です。10 階にある展望台からは芦別の町並みが一望できる。一方、ホテル三十三間堂は、京都の古寺三十三間堂を模して建築された豪華絢爛なホテル。廊下の長さは 80m、幅 3m もある巨大な構造をしている。

図 7 北海道大観音



出典：芦別商工会議所 HP

2 カナディアンワールド公園

カナディアンワールド公園はもともと童話『赤毛のアン』におけるグリーンゲイブルズ（アンの家）、教会やリンド婦人の家等小説に出てくる建物を忠実に再現し 1990 年に作られたカナディアンワールドという大型テーマパークであった。この施設は芦別炭鉱閉山における失業者対策として作られた。炭鉱の閉山対策として作られたために国、市からの膨大な金銭的支援があったこと、そしてバブル景気のまっただ中に計画された施設であることから、採算を度外視した豪華で大規模な施設となった。開園初年度はかなりの入定客数を誇ったが、翌年度以降は入場者が激減。1994 年には冬期間の営業中止にまで追い込まれた。芦別市の支援も行われ営業は続けられたが入客増には結びつかず、1997 年には閉園に追い込まれた。失敗した要因としては 4 つ考えられる。1 つ目は、炭鉱の失業対策、地場振興という側面が強すぎ、ハコモノとしての価値が重視され過ぎソフト的な詰めが甘かったこと。2 つ目は、赤毛のアンというモチーフのスイートスポットがあまりにも狭すぎ、入場客への訴求力が弱すぎ、小説を読んだことのない観光客には単なる綺麗な公園でしかなかったこと。3 つ目は、近隣に富良野市や美瑛町という観光地が存在しているが、交通が不便であったということ。4 つ目は、あまりにも規模を拡大し過ぎたため維持管理費が増大したということ。冬期間の屋外施設は、あまりの寒さのため過酷極まるものがあり、入場客（特にリピーター）は見込まれなかったことも失敗の要因である。1997 年に閉園した後は、芦別市が施設を再利用する形で、無料の市民公園として再出発させている。また現在では、各種イベント（コンサート、キャンドルアート）等が定期的に行われ、レストランやお土産店、美術館、ミニ列車等があり、1 日ゆっくりとご家族で楽しめる施設となっている。

図 8 カナディアンワールド公園全景



出典：芦別商工会議所 HP

その他にも、観光施設・観光地として三段滝、夫婦滝、空知大滝、滝里ダム、芦別岳、桂沢公園、旭ヶ丘公園、黄金水松、アースサークル（約 2500 年以前の墳墓遺跡）などがあり、街そのものが広大な自然環境に恵まれているため名勝公園が多い。

参照 HP

気象庁：<http://www.jma.go.jp/jma/>

芦別商工会議所：<http://www.hokkaido.cci.or.jp/ashibetsu/>

市町村の姿－北海道芦別市：<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-02/216/>

空知支庁：<http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/>